

せんだいメディアテーク 2016 年度自主企画展覧会

畠山直哉 写真展 まっぷたつの風景

2016年11月3日[木祝]—2017年1月8日[日]

せんだいメディアテーク 6階 ギャラリー4200

せんだいメディアテークでは、2016 年度自主企画展として「畠山直哉 写真展 まっぷたつの風景」を開催しますので、ご案内いたします。

本展覧会は、写真家・畠山直哉が取り組む「風景」に着目します。展示内容は大きくふたつの部分に分かれ、前半では、畠山がこれまでに発表してきた初期から現在までの作品群を、シリーズを横断し、独自の視点から再構成し展示します。また後半では、震災で大きな被害をうけた故郷・陸前高田に通い、5 年半にわたって撮影し続けた写真を、そのプロセスが記録された約 550 枚のコンタクトシート（フィルムのベタ焼き）とともに展示します。通常は公開されることのないコンタクトシートを、あえて展示することで、写真家の内面や撮影することの意味を、あたためて捉えなおすこともできるのではないのでしょうか。

これらの作品群と会期中に開催する対話の場を通して、「風景」が持つ二面性や両義性、畠山の表現と現在の私たちの社会との関係性を探ります。



【図版1】Terrils#02337(2009)

展覧会について

写真家・畠山直哉は、1980年代から石灰石鉱山や工場、都市のビル群や地下空間などのシリーズを発表し続けてきました。そこには、私たちが普段は見ることのできない場所の、壮大でときには畏怖を感じさせるような光景が写し出されています。また、2011年の震災以降、故郷の陸前高田を撮影し続ける姿勢には、大きな変化を強いられた東北地方やこの国が共有できる課題が多く潜んでいます。

畠山は「もの」あるいは「事象」に目を凝らします。それが人為的なものであれ自然の営為であれ、起源を問い直すかのように静かに見つめ、作品として結晶化し、わたしたちの社会、文明、そして生に対する開かれた「問い」として投げかけてきました。本展では、その問いかけにこそ着目したいと思います。

本展タイトル「まっぷたつの風景」は、イタロ・カルヴィーノ『まっぷたつの子爵』*から採られました。畠山自身も愛するこの寓話は、物事にすぐ白黒をつけようとしたがる私たちに、注意を促します。たとえば、私たちは誰でも善悪や美醜など二つの面を持っているのに、他人に対してはその一方だけしか見ようとしなないところがあります。物事を無理矢理まっぷたつに分けてしまえば、物事は成り立たなくなってしまうのにです。本展では、これと同じことが「風景に対しても言える」という仮説のもとに展示を構成します。

「風景は、ただそこにあったものではなく、人間が歌を詠んだり絵にしたり写真を撮ったりするたびに、新しく生まれている」と畠山は主張します。人の表現に応じて「風景」は生まれ、美しさや残酷さ、不思議さや不条理さといったものとして、その都度新しい姿を現すというのです。震災以降、変貌する故郷を撮影し続けてきた畠山の「風景」には、過去からの大きな断絶が見て取れますが、同時にそこに、「風景」の持つ二面性や両義性、未来の「風景」への気配を感じ取ることができるかもしれません。

初期から現在まで約200点の作品群と対話の場を通じて、畠山直哉という一人の写真家に取り組む「風景」が、現在の私たちの社会にとって、どのような意味を持つのかを考える機会となればと思います。ぜひご高覧ください。

*『まっぷたつの子爵』（イタロ・カルヴィーノ著、1997年、晶文社）

開催概要

せんだいメディアテーク 2016 年自主企画展覧会

『畠山直哉 写真展 まっぷたつの風景』

会期：2016 年 11 月 3 日（木祝）から 2017 年 1 月 8 日（日）

開場時間：11 時から 20 時

会場：せんだいメディアテーク 6 階ギャラリー 4200

入場料：一般 500 円（大学生・専門学校生含む）、高校生以下無料

（豊齢カード、障害者手帳をお持ちの方は半額）

休館日：11 月 24 日および 12 月 29 日から 1 月 3 日

主催：せんだいメディアテーク（公益財団法人 仙台市市民文化事業団）

助成：一般財団法人 地域創造 芸術文化振興基金

後援：TBC 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、産経新聞社東北総局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、せんだいタウン情報 S-style、エフエム仙台、ラジオ 3

協力：東京都写真美術館、株式会社 アマナ、株式会社 資生堂、Taka Ishii Gallery

総出品点数 197 点（写真作品 195 点、HD ヴィデオ作品 1 点、コンタクトシート 1 組）

作家紹介



©『未来をなぞる 写真家・畠山直哉』制作委員会

畠山直哉（はたけやま・なおや）

写真家。1958年岩手県陸前高田市生まれ。筑波大学芸術専門学群にて戦後前衛芸術集団「実験工房」のメンバーであった大辻清司や山口勝弘に薫陶を受ける。1984年に同大学院芸術研究科修士課程修了。以後東京を拠点に活動を行い、自然・都市・写真のかかわり合いに主眼をおいた一連の作品を制作する。石灰石鉱山の連作と、東京の建築空間や水路を被写体にした作品群で注目を集め、1997年第22回木村伊兵衛写真賞、2001年第42回毎日芸術賞、2012年芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞。国内外で個展、グループ展に多数参加し、2001年にはヴェニス・ビエンナーレ日本代表の一人に選出されている。また2012年には、ヴェニス・ビエンナーレ国際建築展の日本館展示に参加し、館はその年の金獅子賞を受賞した。作品はTATE（ロンドン）、MoMA（ニューヨーク）、東京国立近代美術館をはじめとする、主要都市の美術館に収蔵されている。2011年の東日本大震災以降は、故郷の風景を扱った作品の発表や、震災関連の発言を積極的に行っている。

主な出展作品



【図版2】Santa-Fe, CDMX (2015)



【図版3】POZNAŃ (Lovers) (2010)



【図版4】『ATMOS』#04304 (2003)



【図版5】『Blast』#12116 (2005)



【図版6】Findling (2009)



【図版7】『CAMERA』 Hôtel Warwick Genève #712 4 May 1995



【図版8】『光のマケット』 #0426 (1994)



【図版9】『気仙川』HDビデオ



【図版10】『陸前高田』2011年4月5日 高田町寒風



【図版11】『陸前高田』2011年10月13日 高田町館の沖 陸前高田市役所



【図版12】『陸前高田』2013年5月14日 気仙町今泉仲町



【図版13】奥尻 2016年7月12日



【図版14】『等高線』軽トラック (1982)

関連イベント

展覧会の関連イベントとして、「対談」「てつがくカフェ」「ギャラリーツアー」を行います。

[連続対談]

未曾有の出来事には、未曾有の物言いが必要だ（畠山直哉）

「畠山直哉 写真展 まっぶたつの風景」の関連イベントとして、写真家の畠山直哉と3名の表現者との対談を開催いたします。2011年の震災という未曾有の出来事を経験した東北で、未曾有の物言いを目指す場を開きます。

※いずれの回も展覧会チケットの半券の提示でご参加いただけます。申込不要、直接会場へ。

対談1：「言葉のリアル / イメージのリアル」

佐々木幹郎（詩人）× 畠山直哉

「表現者の表現方法が3・11以後、一日にして変わることはありません。重要なのはそれ以前に、無意識であれ意識的であれ、本能に沿ってやられていたことが鮮明に見えてくると言うことです」（佐々木幹郎著『瓦礫の下から唄が聴こえる—山小屋便り』〈みすず書房、2012年、34頁〉より）。東日本大震災後、被災地をめぐった詩人の佐々木と畠山が「写真行為」をテーマに語り合う。

日 時：11月3日（木祝）14時から16時

場 所：1階オープンスクエア

定 員：先着160席

対談2：「人工天国—現在の風景に何をみるのか？—」

いがらしみきお（漫画家）× 畠山直哉

東北の川や山に囲まれて育った同世代のふたり。散歩を日課とし、定点観測のように風景を見つめるいがらしと、風や光を読み、釣り人のように風景を撮る畠山。移り変わる現在の風景に、ふたりは何を見るのか。

日 時：11月23日（水祝）13時から15時

場 所：6階ギャラリー 4200

定 員：先着60席

※要約筆記つき

対談3：「暗夜光路—写真は何をするのか？—」

志賀理江子（写真家）× 畠山直哉

3.11をそれぞれの場所で経験した写真家のふたり。震災という暗い夜を過ごし、そこからどのような光を見つけたのか。影と光を扱う「写真」という共通の方法で制作を続けてきた志賀と畠山が「写真は何をするのか」を問う。

日 時：12月24日（土）13時から15時

場 所：6階ギャラリー 4200

定 員：先着60席

[てつがくカフェ]

てつがくカフェは、私たちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いを投げかけ、「対話」をととして自分自身の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験していただくとするもので、てつがくカフェ@せんだいとメディアテークが協働で開催しています。

今回は本展の関連イベントとして映画や作品を通じて対話する全3回のてつがくカフェを開きます。



©『未来をなぞる 写真家・畠山直哉』制作委員会



てつがくカフェの様子

※いずれの回も展覧会チケットの半券の提示でご参加いただけます(上映のみ別途料金がかかります)。申込不要、直接会場へ。

1 映画『未来をなぞる 写真家・畠山直哉』から考える

11月19日 [土] 13時から17時15分

陸前高田出身の写真家・畠山直哉は、どのように震災と向き合ってきたのか。震災後の2年間を総括的に追ったドキュメンタリー映画を鑑賞し、上映後に対話の場を開きます。

【上映】13時から14時30分(15分前開場) 場所：7階スタジオシアター

当日券のみ 一般500円、高校生以下無料(豊齢カード・障害者手帳をお持ちの方は半額)

【てつがくカフェ】14時45分から17時15分 場所：6階ギャラリー4200

定員：先着60席

2 展覧会「まっぷたつの風景」から「割り切れなさ」を問う

12月10日 [土] 14時から17時 場所：6階ギャラリー4200 定員：先着60席

3 展覧会「まっぷたつの風景」から「明日」を問う

12月25日 [日] 14時から17時 場所：6階ギャラリー4200 定員：先着60席

[ギャラリーツアー]

メディアテークの学芸スタッフと一緒に展覧会をめぐるります。

※展覧会チケットの半券の提示でご参加いただけます。申込不要、直接集合場所へ。

11月13日 [日]、12月4日 [日] 14時から 集合場所：6階ギャラリー4200 受付前

定員：両日とも先着15名 対象：小学生以上

お問い合わせ先

このリリースに掲載されている【図版 1～14】をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、下記展覧会担当までご連絡ください。

※図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

※図版のトリミングはできません。

展覧会担当：清水 有 tamotsu@smt.city.sendai.jp 清水チナツ c.shimizu@smt.city.sendai.jp
代 表：info@smt.city.sendai.jp



せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
tel: 022-713-4483 fax: 022-713-4482